

令和7年度 県立東海高等学校自己評価表

目指す 学校像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、教職員、家庭、地域が連携し、地域社会から愛される学校 一人一人の自主性、2つの自りつ(自立・自律)性を育むとともに、明るく誠実で、知性豊かな、心身ともに健康な生徒を育成する学校 			
	三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の幅広いニーズに対応した教育課程による、就職から進学までの進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	自己実現・進路目標実現を目指し、日々努力する生徒の受け入れ		
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
	<p>【昨年度の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導について、クラッシー(大学進学率アッププロジェクト)に加え、学校独自にスタディサプリも導入。学習の動機付けと基礎学力の向上につなげている。1年論表3単位、教1A5単位で2クラス3展開の少人数授業(数学は習熟度別)を実施。発言・表現機会の増加により、主体的な学びと基礎学力の向上につなげている。6月、12月実施の生徒による授業評価アンケート(4点満点)において、授業満足度(知識・技能)及び授業満足度(思考力・判断力・表現力)の全職員の評価値の平均が、6月→12月でそれぞれ、3.4→3.3、3.3→3.3とどちらも0.1ポイントのマイナスとなってしまったが、3.2以上の肯定的な評価を得た職員の割合は6月→12月で72.7%→78.8%、69.7%→72.7%と増加した。 進路指導については、自立心や職業観育成のため体験活動を推奨。インターンシップ8名、幼稚園実習21名、看護体験10名、理学療法士体験5名が参加。 探究活動については、2学年総合的な探究の時間の取り組みの一つとして、東海村役場と協働し村の魅力発信の動画を全員が作成。「いばたん」に応募し1作品が自治体特別賞を受賞。 生徒会・ボランティア活動については、近隣小中学校との合同あいさつ運動を年2回実施の他、生徒会と部活動生徒による校内のあいさつ運動を月1回実施。延べ340名参加。また、村サマースクール、村内各種イベント、外国籍クルーズ船寄港イベント、ジャズバンド部イベント演奏(6回)等、ボランティアに積極的に参加。延べ約220名。 本校の特色ある活動として、留学生(聴講生)を延べ6名受入れ。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎基本から応用までの学習指導。学習意欲の向上と国公立大学合格者の輩出。 キャリアパスポートの効果的な運用研究の継続。 探究活動の充実。東海村との協働(フレンドシップ協定の利用)。 	観点別学習状況の評価を生かし、基礎基本から応用まで学習指導を行い、ICT等を活用しながら授業改善を行い個々の学力向上に努める。	①年間指導計画表を活用して、組織的・計画的な学習指導を推進する。 ②ICT等の活用を含めた指導法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識の定着と応用力の育成を図る。授業評価アンケートを活用、授業満足度平均3.2以上を目指す。 ③個々の学習課題を提示することにより、学習目標を明確にさせ、生徒の意欲を喚起する学習指導を行い、学力の向上を図る。 ④多様な学習ニーズに対応した学びを検討する。	A
		多様な個々の進路希望にむけ、指導体制を確立し指導の充実を図る。	⑤情報収集の不安解消に努め、進路実現のために必要な情報提供を図る。 ⑥就業体験(インターンシップ)や幼稚園体験実習、1日看護体験等とおして、自立心や職業観を育成し、キャリア教育の充実を図る。 ⑦進学、就職のための学習指導の充実を目指す。	A
		基本的な生活習慣の確立を図り、社会に通用する自主的・2つの自りつ(自立・自律)的な態度の育成に努める。	⑧服装、頭髪、公衆道徳等の指導をとおして、規律ある明るい学校生活を確立するとともに、全職員が共通理解のもと一貫した生活指導を行う。 ⑨日々の教育活動の中で自主的・2つの自りつ(自立・自律)的な態度の育成を図る。 ⑩情報モラル・公共マナーの指導等をとおして、健全な心と社会性を育成する。	B
		生徒会活動・部活動を奨励し、スポーツ・文化・芸術を親しむ態度と達成感や連帯感の育成に努める。	⑪自主的・主体的な生徒会活動・部活動の活性化をとおして、集団の一員としての自覚、他と協調できる豊かな人間性を育成する。 ⑫部活動の3年間継続を目標とさせ、技術・体力の向上を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。 ⑬キャリアパスポートを活用し、学校行事、部活動などでの様々な体験や学びを通して、人間関係形成、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の伸長を図る。	B
		地域と連携し、信頼される魅力ある学校づくりに努める。	⑭地域の行事等に積極的に参加するなど、地域との連携を深める。(東海村とのフレンドシップ協定の活用) ⑮積極的な広報活動(新聞、村広報等、各種メディアへの情報提供)により学校の活動状況を発信する。	A
		働き方改革を進め、教育活動の精選と充実を図る。	⑯校務の適正な分担を図り、各自週1日程度の定時退勤日を設ける。 ⑰ICT等の活用により教材の共有化・業務の効率化を図り、教員と生徒が向き合う時間を確保する。 ⑱超過勤務時間月平均45時間以上の職員0を目指す。	B

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	基礎的・基本的な学力の向上と応用力の育成強化 (授業改善プロジェクトの推進)	I C T活用、指導法の研究に努め、授業内容及び家庭学習の定着を図る。	①②③	B	相互授業参観、公開授業をそれぞれ年2回実施した。授業内のタブレット使用に関して教科間でばらつきがある。少人数授業は年間を通じて実施し、数学は年5回のクラス替えを行うことで、モチベーションアップにつなげた。本校において少人数授業は、基礎基本から応用まで個別最適な学びのうえで有効であり、今後も継続して行いたい。平常課外も各学年、年間20回以上実施し、応用力育成に努めた。資格取得に向けて、漢検41名・英検55名・数検5名の申込があった。漢検・英検は人数が増えたが、数検の人数は激減した。積極的な声かけを行っていききたい。	
		年間指導計画と観点別評価を活用した計画的な学習指導を推進する。	①	B		
		公開授業・相互授業観察等を行い、授業改善を図る。	①②③	A		
	生徒一人一人の学習意欲の喚起と自主的・自律的な学習態度の育成	少人数授業(数学・英語・国語)の展開や課外等の実施により基礎基本の定着と応用力の育成を図る。	②③④	A		
		各種資格、検定試験等を積極的に推奨し、学習意欲の高揚を図る。	③	A		
		平常課外や長期休業中の課外をとおし、応用力の育成と進路実現を支援する。	②③	B		
	苦手意識を持つ生徒に対して基礎基本からの学習指導(課外等)を実施する。	②③	A			
教科	国語	基礎学力の向上	テキストを活用し、漢字能力を高めるとともに語彙力の向上を図る。定期的に(週に1回程度)小テストを行い、基礎学力を定着させる。	②③	A	表現力の育成と、生徒の主体的な活動を促す授業の工夫をしていきたい。I C Tを活用した授業を指導法で共有し、生徒が意欲、関心を持って取り組める授業宴会を目指したい。単位数に合った考查回数を設定し、適切な評価を行う。
		自己表現力の育成	教科書準拠ノートやワークシート等を課題とし、家庭学習の習慣をつける。	②③	A	
			進路実現に向けて文章力や語彙力を身に付けさせ、表現力の育成を図る。	②⑥⑦	A	
			言語活動をとおして自分の考えを筋道立てて文章にまとめたり、発表したりする能力を身に付けさせる。	④⑥	A	
	地歴公民	わかりやすい授業の工夫	テストや課題を適切に評価し、指導の改善に努める。	②③	B	学習意欲を高め、自ら学習に取り組む態度を身に付けさせる。生徒の興味、理解を高めるICT活用。生徒による授業評価結果の0.1ポイント以上の向上
			I C T等の活用や授業形態の工夫に努め、生徒の意欲・関心を高める。	②③	B	
		基礎的・基本的学力の定着	生徒の実態に合わせて学習内容を精選する。	①③④	A	
			定期考査等の結果をもとに生徒の学習到達度を把握し、授業改善に努めることで生徒の学力や学習意欲を高める。	②③	B	
	数学	わかりやすい授業の展開	副教材やプリント、I C Tなどを活用した授業を展開する。	②③	B	今年度は前時の復習や確認の時間を意識的に確保することで、基礎・基本の定着を図るように努めてきた。今後は、研修会への参加や教員間での情報交換を通して指導力の向上を図り、授業におけるICTの効果的な活用を一層推進していききたい。
			グループワークなどの言語活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成に努める。	②④	B	
			単元目標を明確にし、十分な教材研究を行う。	①②③	A	
基礎基本の定着と応用力の育成		少人数授業を実施し机間支援の機会を増やす。(毎授業、各生徒に1回の声かけ)	②③	B	今年度は前時の復習や確認の時間を意識的に確保することで、基礎・基本の定着を図るように努めてきた。今後は、研修会への参加や教員間での情報交換を通して指導力の向上を図り、授業におけるICTの効果的な活用を一層推進していききたい。	
		年6回(定期考査毎)の課題を課す事で基礎基本の定着と、学習習慣の確立をねらう。	①②	A		
		生徒同士の話し合いや確認の時間(毎授業2、3分程度)を設け、主体的な学びを通した基礎基本の定着と知識の深化を図る。	②③④	A		
わかりやすい授業の実践	机間支援を通し生徒のつまづきを発見し的確な課題設定を図る。	②③	A	今年度は前時の復習や確認の時間を意識的に確保することで、基礎・基本の定着を図るように努めてきた。今後は、研修会への参加や教員間での情報交換を通して指導力の向上を図り、授業におけるICTの効果的な活用を一層推進していききたい。		
	教員同士の打合せを密にし、指導と評価の一体化及び授業改善を図る。	①②③	B			
	教科内の授業見学(月1回目標)を通し、I C T等の活用、授業改善に努める。	①②③	B			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
理科	基礎学力の向上	定期的なノート点検や机間支援、ICT等の活用を通して、生徒の取り組み状況やつまづき状況を確認し、必要に応じて学び直しの学習指導を行うことで、基礎学力の向上及び授業改善を図る。 ①②	A	B	電子黒板やタブレット等の授業における使用率は約90%、実験やグループワーク等の活動は年10回程度行った。生徒の主体的な学習態度の育成面で課題が残っており、観点別学習状況の評価を生かして、より生徒にとって魅力のある学習指導・授業改善に一層努力していく。
		生徒同士の話し合いやグループワークなどの言語活動を通して、知識の定着や原理・法則の理解を図る。また、タブレット端末等を活用した主体的な学習態度の育成を促し授業改善を図る。 ②③	B		
	科学的なものの見方や考え方の育成	日常生活に関連する観察や実験に取り組むことで、科学に対する興味・関心を引き出しながら、科学的な考え方を育成し、主体的に探究する態度と能力を身に付けさせる。 ③	B		
保健体育	基礎体力の向上	運動の特性を生かした授業展開を工夫し、運動量の確保に努める。 ①③	A	A	グループワークを多用しコミュニケーション能力向上させる。ICT機器を充実させ、個々の生徒に対応した展開を行う。
		競技及び運動の特性を理解し、自ら課題を見つけ、課題解決に向けて努力させる。 ③	A		
	運動の楽しさを味わう授業展開	簡易ルールを作り、仲間と協力し、相談しながら主体的に活動できるようにする。 ③⑨	A		
		ICT等の活用を含めて生徒の実態に応じた授業展開を工夫する。 ②③	B		
音楽	健康と安全についての理解	健康の保持増進のために生活習慣の見直しや改善を図ることができるようになる。 ③⑩	A	A	生徒の水準も踏まえつつ、生涯音楽を愛好できるよう、様々な音楽体験をさせたい。
		自他の安全に留意しながら運動できるようにする。 ⑨⑩	A		
美術	音楽の特質を理解し、表現する喜びの体験	生徒個々が能力を発揮し、主体的な活動ができるようにICT等の活用を含めて適切な助言を与え、授業改善を図る。 ②③	B	A	表現の場を教室だけで完結せず、展示やプロジェクトに積極的に参加する。
		具体的な目標を持たせ、自己を表現すること、創造的な鑑賞をすることの喜びを与える。 ②③	A		
	造形の基礎を理解し、表現する喜びの体験	生徒個々が能力を発揮し、主体的な活動ができるようにICT等の活用を含めて適切な助言を与え、授業改善を図る。 ②③	A		
英語	基礎学力の向上及び授業改善	小テストを実施して、基礎学力の定着・向上を図り、ICT等の活用によって授業改善を行う。 ①②	B	B	基礎学力を定着させ、英語がわかる喜びを実感できる授業を実践する。観点別評価を生かした学習指導・授業改善に一層努力する。6回の定期テストで、毎回提出物を評価する。
		少人数による主体的・対話的で深い学びを行い、その成果と課題を明確にする。 ②③	B		
	家庭学習習慣の定着	ワークブック等をこまめに点検して、学習内容の定着に努める。 ②③	A		
		定期的なノート等を点検し、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ③	B		
家庭	英語がわかる喜びを実感できる授業の実施	ReadingとListeningに力を入れ、英語を読み、聴いて理解する喜びを体験させる。 ③	A	B	学習の定着を図るため、実験・実習や、外部講師による授業を2回以上取り入れる。わかりやすい授業を心がけ、視覚教材を工夫する。
		ALTを効率よく活用し、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションに親しませる。 ③④	A		
情報	基礎知識・基礎実践力の定着	学びの振り返りや実技テストを実施することで、基本的な知識・技術の定着に努める。 ③	B	B	生徒個人個人が自分の進路をイメージした学習に取り組めるようにする。また日々進歩する情報通信技術に興味関心が高まる授業を心掛ける。
		ワークシートの点検、振り返りシートを活用することで、学習意欲の継続に努める。 ③	B		
情報	生徒の能力、思考に応じた授業構築、テーマの工夫とアクティブラーニングの推進	生徒理解に努め、授業の意義や取り組むべき理由の明確化とその伝達の工夫を図る。 ②③④	B	B	
		生徒にとって身近な教材を準備することで、生徒が自ら課題を発見し、その解決法を思考・判断・表現することができるように努める。 ②③	B		
		グループワークを通して、コミュニケーション力の育成と課題解決力の育成に努める。 ②③	A		
	社会・キャリアを意識した情報モラル・マナーの向上と情報活用能力の育成	様々なメディアを活用し、具体的なイメージを持たせた授業展開を心掛け、社会の一員として必要な能力の定着・育成に努める。 ②③⑩	B		
	外部検定や情報システムなどを活用し、基本的なコンピュータスキルの定着を図る。 ②③	A			
	プログラミング教育などを通し、論理的に物事を組み立てられる思考力を養う。 ②③	A			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教務	授業時間の確保	出張・年休における授業振替を励行し、各教科・学年との連携で授業時間の確保に努める。 行事を調整し、授業時間の偏りを減らす。	① ①	A A	B 業務の効率化は少しずつ進んでいるが、ICTを用いた授業改善に関して、各教科でばらつきがある。今後は積極的なタブレット活用のために、外部講師等を招いて、教員に対して研修を行っていく必要がある。 外部への情報発信について、HPを積極的に更新し、各行事ごとに生徒の様子を伝えることができた。 図書館の利用に関しては、現在利用が87部(昨年100部)にとどまり、生徒の本離れが目立っている。読書を通じて語彙力の向上や知識の幅を広げることが大変有意義であり、朝の読書の時間の効果的な利用を促していきたい。 情報セキュリティに関しては大きなトラブルは起きていない。未然に防ぐことが大切なので、今後も研修等を行っていきたい。	
	学習指導の充実	年間指導計画表と観点別学習状況の成績評価により、指導と評価の一体化、授業改善を図る。 課外の内容を精選し、基礎基本の定着と応用力の育成を図る。 相互授業参観を実施し、指導法の工夫と授業改善を図る。	①②③ ①②③ ②	A A B		
	特色ある教育課程の検討	カリキュラムマネジメントを継続し、多様な進路への対応を目指す。	①③④	B		
	欠席・遅刻・早退者の実態把握	遅刻カードの活用、スプレッドシート等の利用により即時把握に努める。 保護者との連絡を密にし、家庭との連携を図る。	⑧ ⑧	A A		
	開かれた学校を目指す (地域への情報発信と広報活動)	学校案内作成・中学生対象学校説明会・中学校訪問等を通して、本校の特色や活動の積極的な情報発信に努める。 学校公開等で地域との連携・交流を深める。	⑮ ⑭⑮	A A		
	生徒の図書館利用の推進	資料及び情報を収集・活用を図ることで、学習活動を適切に援助する。 図書館の美化や蔵書の整理、コンピュータシステムの運用等、利用しやすい環境を整える。 図書委員会の活動の活性化を促す。	② ② ②	B B B		
	ICT環境の整備拡充及びICT活用の支援	ネットワーク及び周辺機器を管理し、快適な利用環境を整備する。 校内外の講師による研修会を開催する。 校務支援システムのスムーズな運営に努める。	②⑰ ②⑰ ②⑰	A C B		
	情報セキュリティの向上	トラブルの未然防止に努め、不測の事態の発生時には関係機関や職員と迅速に連携・対応する。 各種通知・情報提供等を周知することで、「情報セキュリティ実施手順」の遵守とセキュリティ意識の向上を目指す。	⑰ ⑰	A A		
	進路指導	生徒が目標に向け、自ら主体的に考え行動できる力を育てる	進路相談室等の資料を整理し、生徒・教職員が利用しやすい環境を整備する。 各学年の発意による進路関連事業を計画実施し、生徒の進路意識の向上を図る。 保護者向けの進路説明会等を実施し、家庭との連携を密にして、希望進路の実現に努める。 「進路だより」を定期的に発行し、進路に関する情報を積極的に提供する。	⑤ ①⑤ ⑤ ⑤⑥		B A B B
		生徒の学力の向上と進路決定能力を育てる	インターンシップ等を活用して、正しい職業観の育成を図る。 進学課外の充実を図り、模擬試験等を活用することにより綿密な進路指導を行い、進学希望の達成を目指す。 就職課外・面接指導等を実施し、ミスマッチのない就職内定率の向上を図る。 キャリアパスポートを活用し、生徒の進路実現を図る。	⑥⑦ ⑥⑦ ⑥⑦ ⑭		A B A B
特別活動		HR活動や学校行事等の集団生活をとおして、調和のとれた発達と個性の伸長 よりよい人としての在り方、生き方についての自覚の深長、心の豊かな人間性の育成	LHR計画を作成し、HR活動の円滑な実施を図る。 HRや生徒会活動、学校行事に積極的に参加できるようにする。 クラス企画だけでなく、文化部の文化祭企画への参加を奨励し内容の充実を図る。 キャリアパスポートを活用し、キャリアプランニング能力を自ら成長させる。	⑪ ⑪ ⑪ ⑬	B A A B	
			東海南中学校・中丸小学校との三校合同あいさつ運動に生徒会と各部活動が参加し、マナーアップ運動を推進する。また、ボランティア活動を奨励し、地域に貢献する。 部活動の年間継続を奨励する。	⑭ ⑫	A B	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒支援	明るく、安全な学校環境の確保	日常生活指導の徹底。(内規の読み合わせ、時宜に応じた職員への啓発、毎時間の服装指導) ⑧⑨⑩	B	根気強く、指導支援の必要あり。全職員が継続して関わっていけるような仕組み作りが必要。教員による登下校指導100% 職員間の共通理解及び協力体制の構築が必要。 遅刻回数50%の減少率
		全職員での校外指導の実施。(登校指導、下校指導) ⑧⑨⑩	A	
		交通安全指導(自転車点検と交通安全登校指導等) ⑧⑨⑩	A	
		LHR・総合的な探究の時間を利用しての指導。(喫煙防止、公共マナー、アルコールの害、交通安全、薬物乱用防止、情報安全教育、いじめ防止) ⑧⑨⑩	B	
	生徒の規範意識の高揚	日常生活指導の徹底。(内規の読み合わせ、時宜に応じた職員への啓発、毎時間の服装指導) ⑧⑨⑩	B	
		全職員での校外指導の実施。(登校指導、下校指導) ⑧⑨⑩	A	
		交通安全指導(自転車点検と交通安全登校指導等) ⑧⑨⑩	A	
		LHR・総合的な探究の時間を利用しての指導(喫煙防止、公共マナー、アルコールの害、交通安全、薬物乱用防止、情報安全教育、いじめ防止) ⑧⑨⑩	B	
	保護者、地域社会、関係諸機関との協力関係の構築	地域社会、関係諸機関との協力 ⑭⑮	A	
		本校生徒指導諸事業等の保護者への周知と協力依頼(P T Aによる登校・下校指導、列車添乗指導等) ⑧⑨	A	
生徒指導に対する教職員の共通認識の構築	生徒指導業務、諸手続きの見直し ⑧⑨⑩	B		
	校長・教頭・教務主任・生徒支援部長・学年主任・特別支援教育コーディネーター連絡会の実施 ⑧⑨⑩	B		
保健厚生	健康への意識を高め、よりよい行動を選択できる力の育成	身体測定・各種検診の実施を通し、自分の健康に関心を持たせるようにする。 ⑨	A	感染症予防について生徒の健康・安全への意識を高める働きかけを行う。 生活環境の整備と充実を図る。一人一台端末を利用しながら「こころの健康観察」を続けて、問題を抱えている生徒の早期発見・問題解決に努める。また、引き続きカウンセリング等を通じて生徒の心のケアを図る。
		保健指導・講演会などを実施し、健康についてのよりよい情報を提供する。 ⑨	B	
	心身不調者の早期把握と効果的な対応	保健調査・健康相談を実施し、心身に不調を抱える生徒を早期に把握し対応する。 ⑨	A	
		スクールカウンセラー・関係職員と連携し、カウンセリングを通して生徒を支援する。 ⑨	A	
	学校生活に適した環境の整備	環境衛生検査・安全点検等を実施し結果をもとに環境の改善を図る。 ⑨	A	
		校内清掃を計画・実施し、必要な用具を整備する。 ⑨	A	
防災意識の高揚と危機意識の育成	危険を未然に防ぐための注意を喚起し心構えを養う。 ⑨	A		
	地震・火災・原子力対応の避難訓練を実施し、非常時に適切な行動がとれるようにする。 ⑨	B		
生徒の厚生の充実	奨学金の呼びかけと手続きを確実にを行う。 ⑨	A		
	購買が滞りなく実施できるよう連絡・調整・管理を行う。 ⑨	A		
渉外	P T A活動の活性化と充実	P T A総会の内容等を吟味して、より多くのP T A会員に、P T A総会に参加していただけるよう努める。 ⑭⑮	B	P T A事業の改善を図り、今年度よりも一人でも多くのP T A会員の参加者を目指す。また、令和9年度実施予定の50周年事業の準備を本格的に進めていく。
		P T A役員への連絡を出来るだけ早く行い、役員会や各種委員会の活動に、より多くのP T A役員に参加していただけるよう努める。 ⑭⑮	B	
		創立50周年記念事業校内実行委員会を立ち上げ、記念事業の準備をすすめる。 ⑭	B	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
第1学年	基本的生活習慣の確立	無断の欠席・遅刻・早退をしないように家庭との連絡を大切にする。	⑧⑨⑩	B	基本的生活習慣の確立のために、次年度も学年スタッフだけでなく、教科担当者とも連携し向上に努めていきたい。欠席・遅刻・早退を減らし、生徒が学習に積極的に取り組める環境整備を行ってきたい。 スタディサプリは、学力テスト毎に配信される連動型課題を長期休業の課題に結びつけ提出率90%を維持したい。
		制服を正しく着用させ、髪などの身だしなみに清潔感を持たせる。	⑧⑨⑩	B	
		清掃を徹底させて校内美化に努め、規範意識の向上を促す。	⑧⑨⑩	B	
		スマートフォンの使用マナーや言葉遣いなど、社会常識に則った生活を心がけさせる。	⑧⑨⑩	B	
	基礎学力の習得と向上	正しい授業態度を身につけさせ、板書事項や教授事項をノートに書くことを徹底させる。	③⑧⑨	B	
		家庭学習及び自主的な学習の習慣を身につけさせる。	③⑦	B	
各種検定試験受検や、課外学習への参加を促す。		②③⑦	A		
「総合的な探究の時間」の充実	I C Tの活用(スタディーサプリ等)を通じて生徒の学習意欲が高める。	②③⑦	A		
	探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会と関わる活動を通して、自己のあり方生き方を考えさせる。	⑦⑨⑮	A		
第2学年	基本的生活習慣の確立・生活指導の徹底	協働的な活動を通して、課題の発見と解決ができるよう資質・能力を育成する。	⑨	A	
		基本的生活習慣の育成を図る。家庭との密な連絡を心がけ、皆勤等を奨励しながら、T P Oを意識した態度や提出期限を厳守できる姿勢を育む。	⑦⑨	B	
		身だしなみ、言葉遣い、スマホ等マナーの指導を徹底し、規律を意識した生活を心がけさせる。	⑧⑨⑩	B	
		教室、廊下等校内清掃を徹底させ、落ち着いた生活環境を整える。	⑧⑨⑩	B	
	基礎学力の向上・自主的な学習態度の涵養	L H Rや総合的な探究の時間をとおし、思いやりや協調性を育み、健全なコミュニケーション能力を身につけさせる。	⑪⑬	A	
		次時の授業準備を徹底させ、授業を受ける態度の充実を図り、基礎学力の向上に努める。	②③⑨	B	
		進学課外や校外模試などの積極的な受講・受験を促すなど、目標をもった学習態度の涵養に努める。	①②	A	
	進路指導の充実	検定試験に挑戦することなどをとおして、自主的な学習習慣の育成と進路実現に向けての姿勢づくりに努める。	③⑦	A	
		進路講話やホームルーム活動をとおして、生徒一人ひとりの適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。学年での進路決定を意識づけさせる。	⑤⑦	A	
		部活動や生徒会活動、修学旅行やインターンシップの体験をとおして、自己理解を図りながら、自己の適性を発見し、進路意識の育成を図る。	⑥⑪⑫	A	
第3学年	基本的生活習慣の確立と生活指導の徹底	進路講話やホームルーム活動をとおして、生徒一人ひとりの適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。学年での進路決定を意識づけさせる。	⑤⑦	A	生活習慣を身に付けさせるために、入学時からの継続的な指導及び即時的な指導の徹底が必要であると考え、指導してきた。個々に応じた指導を行い、充実した進路支援ができた。月に一度、学年集会を実施することで、集団に所属している心を育む。
		言葉遣い、礼儀作法、身だしなみの指導を徹底し、教員間及び家庭と協力し実施する。	⑧⑨	B	
		基本的生活習慣の完成を図り、自律的態度を身につけさせる。	⑧⑨	B	
	生徒一人一人の進路実現への継続的な学習支援「いける」ところから「いきたい」ところへ	授業や日常生活を通し、コミュニケーション能力や適応力を身につけさせる。	⑨⑩	A	
		進路目標を明確にし、自主的な学習習慣と家庭学習の充実を促す。	③⑦	B	
		個々に応じた進路相談を徹底し、進路に応じた課外や模試などを実施し、学力向上に努める。	③⑦	A	
総合的な探究の時間の充実	進路決定後も学習意欲を継続させ、最後まで学ぶ態度を育てる。	③⑦	B		
	進路別学習を実施し、必要な学力や面接の練習をとおし、希望進路の実現を図る。	⑤⑦	A		
		進学就職セミナーなどの講座をとおし、社会人としてのスキルアップを図る。	⑤⑦	A	

※ 評価基準： A：大変よく達成できた

B：よく達成できた

C：普通である

D：やや不十分

E：不十分